

# 目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第90号 2021年3月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明  
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

## 2021年新年あいさつ

会長 後藤 克彦



明けましておめでとうございます。  
新型コロナウイルスの感染拡大状況は依然として収束する気配も無く、日に日に予断を許さない状況が続いています。

昨年の新年会での挨拶では東京五輪への期待と楽しみのお話をさせていただきましたが延期となりました。開催は今年の7月23日を予定されています。

このコロナ禍では世界中、人類平等に行き渡る効果的なワクチンに期待しています。早いウイルス収束の中での[平和の祭典]である東京五輪が夢で終わることなく、実現できることを。しかし毎日発表される感染拡大での発表と長く続くステイホーム状態で生活スタイルだけでなく大きく価値観が変化していることに気づかされます。

目黒稲門会では厳しいコロナ禍でも少しずつ部会活動を工夫しながら進めています。オンラインを使った活動として幹事役会、茶話会等や俳句会の投句活動、三密を避けての個人個人のウォーキング活動メールでの発表等。会員の協力で積極的にいろいろな情報を"目黒稲門会会報"として掲載し続けています。私達ができる小さな活動が会員の皆様に少しでもお役に立ち大きな絆になることを期待しています。

会員の皆様、家族の皆様が今年も元気で楽しく、仲良く活動できるよう謹んでお祈り申し上げます。

幹事長 金井 豊男



明けましておめでとうございます。  
昨年は新型コロナウイルスの感染対応で明け暮れし、本年も当面この状態が続くと予測されます。

昨年、オンライン役員会、俳句部会(郵送句会)の再開、美術・歴史鑑賞部会およびスポーツ観戦部会の情報提供等一部活動を

を前進することが出来ました。

新型コロナウイルス禍を生き抜くためそれぞれ考えておられていると思いますが、心まで「家ごもり」せず、従来の殻を破り柔軟に活発に行動する事が必要と思います。

目黒稲門会は、その活動を通じて会員の皆様、ご家族の皆様の心身の健康維持に少しでも寄与すること願っています。

その為、当会の本年の基本方針を、(1)オンライン役員会、茶話会等への参加者を増やし会員間の活発な意見、情報交換を行う、(2)会員の高齢化、コロナ禍を乗り越えるため新規会員を積極的に獲得する、としますので、一層のご支援、ご協力をお願い致します。

事務局長 吉野 博明



目黒稲門会の皆様 新年おめでとうございます。

2020年は1月の新年会や、2月の設立20周年記念会員作品展までは何とか実施できましたが、その後はコロナ禍のために、集会形式の活動は全く止まってしまいました。各集会後に恒例であった懇親会も開催できず、個人的にも大変残念です。

さて、2021年はどんな年になるのでしょうか。昨年は、苦しいときにはいろいろな工夫が出てくることを経験しました。特筆されるのは、オンラインでの様々な試みです。役員会も書面開催から、オンラインに移りました。それなら平日の夕方では出席が難しい現役役員も参加できるよう週末に開催したらどうかと提案があり、実現しました。

悩ましいのは、オンラインのメンバーも固定しがちです。もっと沢山の方に参加して頂き、活発なアイデアを頂戴したい。対面形式の活動は当面無理ですが、オンラインでの活動がさらに活発になり、会員同士の交流増進すること切に願っております。

## 2021年オンライン賀詞交換会開催

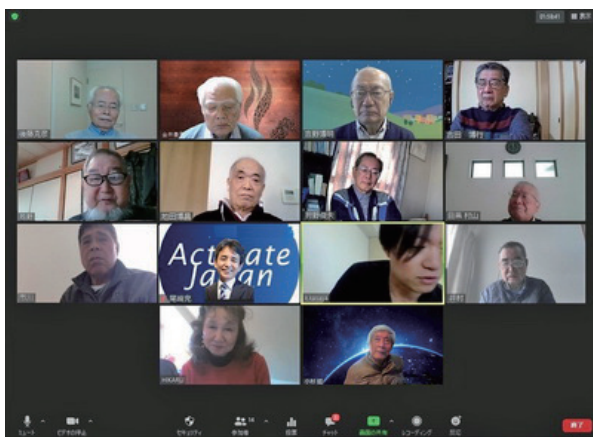
コロナ禍のため2021年新年会は見送りとなりましたが新しい試みとして2021年1月9日(土)、10時から開催のオンライン役員会の後、11時から12時までオンライン賀詞交換会を開催しました。

吉野博明事務局長の司会により開会、始めに後藤克彦会長より新年の挨拶がありました。続いて地田博昌監査役、尾崎充監査役、中上美代子副会長より新任の挨拶がありました。その後、出席者全員よりコロナ禍下の近況についての報告がありました。

中締めは、金井幹事長の挨拶と参加者への謝辞の後、お開きとなりました。

新年会出席者(敬称略、五十音順)

市川 亘、井村正陽、尾崎 充、笠谷興一朗、金井豊男、狩野俊夫、小杉 哲、後藤克彦、地田博昌、中上美代子、牧野武夫、村山 弘、吉田博行、吉野博明



## 各部会からの案内・報告

### 俳句部会

第129回「俳句部会報告」

日時 2021年1月11日(月)郵送句会(順不同)

川井素山	焼蕎麦りふた廻り目の声高し
保井寶正	年毎に小振りになるや鏡餅
佐久間喬	抜け道や昔ながらの松飾
丸山酔宵子	薄氷や使用禁止の手水鉢
吉田啓悟	日脚伸ぶ今日は青梅に行ってみる
青木英林	渋滞を横で眺める雪だるま
山本草風	聴診器不安を聴きとる師走かな
佐久間たか子	月冴えて話し掛けたや雪仏
渡辺鯨波	イケメンの雪だるまから溶けてゆく
後藤克彦	薄氷に映りし顔やアマビエ似
永井正孝	薄氷の鉢に浮かびてキラキラと
原 晶如	懐手何も買はぬとウインドウ
青葉ひかる	オリオンを探し廻りて凍える手

### 中原主宰の短評から

『焼蕎麦りふた廻り目の声高し』

一度では反応が全くなかった。半ばヤケクソ気味。二回目は大きな声で・・・。

『日脚伸ぶ今日は青梅に行ってみる』

何もあとは書いてないが、そろそろ梅が咲きはじめているかも 青梅線に乗り換えていくものすごい人出だったらヤバイ。

『渋滞を横で眺める雪だるま』

人間さまはトロトロと走っている雪だるまは動くことは出来ないが愚かな景と思って眺めているかとも。

『聴診器不安聴きとる師走かな』

心臓も心配ごとで常ならぬ音立てているやも師走は色々心配ごとあるのだ。

『イケメンの雪だるまから溶けてゆく』

ブ男がシブトク残って・・・という世の皮肉美男薄命じゃ。

『薄氷に映りし顔やアマビエ似』

アマビエも去年よく出ました 想像上の妖怪ですから誰もハッキリ顔は知らないのですが、何となく映った顔が妖しく見えたのだ。きっと。

中原主宰の新潟日報・元日版に寄せた句です。

### お年玉脂粉の匂ひ知りめし

逆境にあっても、もう既に冬木の芽は膨らんで春を待っています。待つという期待感生きて行く上でエネルギーになります。今日は自分の句が載るか新聞が待ち遠しく、寝てられない気分、それです。

俳句部会長 佐久間 喬

## お元気ですか? - 会員近況報告 -

外岡 明 (昭和26年 理工)

自宅を離れて、老人ホーム「クララ上野毛」に入居しています。体調も良く、毎日快適な生活を送っていますが、日常的なものの忘れや記憶違いが多くなりました。



コロナ禍で、会員の皆様に会えないのを寂しく思っています。世の中が、早く元通りになり、役員会や「よん月会」等顔合わせをして元気な顔に会いたいと願っています。

真仁田 勉 (昭和28年 法)

一人暮らしをして13年になります。毎日の食料調達にガーデンプレイスの三越食品売り場にバス・電車を乗り継いで出かけています。一時期悪かった足もどうやら歩けるようになりました。生活を続けるということは毎日が単純の繰り返しです。一つ一つ目標を以て努力して行きた





いと思います。

最近目が悪くなりましたが、なるべく本を読むようにしています。

最近の早稲田はどうなっているのか、慶応の後ろ姿がだんだん遠く離れてゆくような気がしています。もっと頑張っ

柳田幸夫（昭和31年 法）

私は、「黒部の太陽」（石原裕次郎主演）の黒部ダムから黒部川を下った扇状地の中ほどの若栗村（現在、富山県黒部市若栗）に生まれました。生育も危ぶまれる未熟児でしたが、不思議なもので本年1月に米寿を迎え、長寿を楽しむに至っています。



受験のために何も知らない東京に出てきて、幸運にも早稲田大学の法学部・大学院で学ぶことができました。同郷の有倉遼吉先生（憲法）や直接ご指導頂いた野村平爾先生（民法）には、在学中も卒業後も公私に亘りお世話になりました。特筆すべきは、2010年から4年間、早稲田の理事を勤め、当時の鎌田薫総長の主導した改革に参与する機会を得たことです。私は弁護士4、5年目にハーバード・ロースクールで学び、約30年後に同じくハーバード・ロースクールの客員教授や幾つかの委員を勤めましたが、その際に得た知識や経験をもとに早稲田の理事会でさまざまな意見を述べました。創立150周年のあるべき姿を示すビジョンとして早稲田大学のホームページに掲載され、早稲田大学の更なる発展の指針として、受け継がれています。

本年、米寿を祝うことができるのも皆様のおかげです。私も皆様と共にもう一踏ん張りして、早稲田大学の、そして日本と世界の行く末を見届けたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

川井信義（昭和32年 政経）

近況：本年10月に米寿を迎えます。コロナ禍の為、ステイホームで読書、俳句、近隣の駒場公園等での散策の日々です。



健康法：健康法は特にありませんが、歩くこと、読書や日記、そして俳句を詠むことが老化の防止法になっています。目黒稲門会でウォーキング部会に参加して歩くようになったこと、また故佐藤喜孝さんが始められた俳句部会に誘われたことから俳句を詠むようになり、現在の健康維持に役立っていると感謝しています。

趣味：中学2年頃から始めた米式蹴球ですが、同期生は8名いましたが残るは4名となりました。いつの間にかOB会の中でも長老の一人になってしまいました。その仲間と年2回、夏の暑気払い、年末の

忘年会で集まるのを楽しみにしていましたが、昨年は適わず残念でした。何しろ、人に会えないのはつらいことで、つくづく人間は社会的動物なのだと感じているこの頃です。

目黒稲門会へ：他の稲門会で活躍する仲間の話を知ると、目黒稲門会は良くやっていると評判です。私もそう実感しており、大変感謝しています。

大野利幸（昭和35年 理工）

1月2日に満85歳になった。90歳までは生きるつもりでいるが、体調は良く元気だ。月に一度は病院で検査を受けているが、この調子だとまだまだ長生き出来そうだ。健康維持のため、散歩を兼ねて、毎朝早く近くの「林試の森公園」まで歩き、ラジオ体操をして帰るのを日課としている。



食事は、朝と昼は自分で作っているが、夜は娘の作る料理で赤ワインを楽しんでいる。趣味の写真は最近撮っていないが、展覧会をやるのなら作品を出展する。前に、毎年開いていた自由が丘の「ふぐを食べる会」が懐かしい！早く少人数でもいいから飲み会を開いて欲しい。

田島順一郎（昭和49年 政経）

呼吸器系の病気で酸素ボンベを引くようになって4年。皆様の励ましでここまで来られました。稲門会も足が遠のき、「遠門会」になっています。コロナ禍で外出自粛、人と会わない。全国的に療養生活と変わらなくなってきました。



息も続かないし咳で迷惑かけるし、合唱団は既にあきらめています。リハビリさんと相談して、雨でない日は世田谷公園前デニーズまで20分歩いています。着いて「どっこいしょ」と座って、「ドリンクバーですぬ。」と言われるのが日課です。

本くらい読まないと恥ずかしいので、昔の本を開くと難しい漢字が多く、ルビが有難くて涙します。

帰ってくると消毒です。胃のアルコール消毒は、血糖値の関係でビールも日本酒も糖質ゼロプリンゼロ専門です。長らく本物は飲んでません。今年作った年賀状が、う【家（うち）ごもり】し【趣味に】ど【読書に】し【消毒酒】です。本年もよろしくお願い申し上げます。

-----  
編集部より：コロナ禍のため総会、新年会、部会等でお会い出来る機会が無くなりました。本記事は、インタビューまたは本人による近況報告です。

近況情報をお持ちの方は、是非、編集部までご連絡をお願い致します。

## 会員の広場

### スペイン巡礼の道(カミーノ)を歩く ～パンプローナ(Pamplona)からブルゴス (Burgos)まで200kmを10日間で歩く～

吉野博明 (昭和45年 法)

2016年6月17日、長年の夢だったスペイン巡礼の道へ向けて羽田空港から飛び立ち、ロンドン経由マドリッドに着いたのは、その日の深夜に近かった。ホテルに一泊後、翌18日は電車で3時間程かけて、マドリッドの北東300kmのところにあるナバーラ州都パンプローナに移動する。人口19万人だが、2週間後に勇壮な牛追い祭りを待ちのぞむ、中世の名残り豊かな街を散策した。

夕飯前に、この街のツーリスト・インフォメーション・センターに立ち寄り巡礼証明書(クレデンシヤル)にパンプローナの判を押してもらい、土産物店では十字架の入ったホタテの貝殻を買った。



＜写真右・ホタテ貝の巡礼者章 左・巡礼証明書＞

ホタテ貝はバッグの上など見え易いところに下げる。巡礼証明書は、宿泊地のホテル・ツーリストセンターでスタンプをもらう。サンチャゴの大聖堂に着いた時に完了証明書を頂くためには必携である。

第一日目：6月19日朝7時にホテルを出て巡礼路を歩き始めた。街中では、通りの石畳に黄色のペンキで矢印、或いは街角の建物の壁にも青色のホタテマークに黄色の線の入った標識がある。郊外では小さな石柱や岩の上に目印があるので、それを辿って歩く。

標高420mのパンプローナから、12kmほど先の標高790mのペルドン峠(Alto del Perdon)を越えて、プエンテ・ラ・レイナ(Puente la Reina、女王の橋、標高345m)まで約22km。高々400m弱の標高差ながら、やはり10kg近いバックパックを背負っての急勾配の登りはきつい。出発直前にあれもこれもと荷物を詰めすぎたことを後悔する。

朝食の為、途中の村のカフェに立ち寄り、カフェコンレチェ(ミルクコーヒー)とクロワッサンの朝食を摂る。これは、これからの旅で朝食の定番となる。カフェで昼食用にボカディージョ(Bocadillo、スペイン風サンドイッチ)を買って、再び出発。

ふと気が付くと、若いカップルが自転車を曳いて私の前を登っていく。そのうち彼氏の方が彼女の自転車も持って曳き始めた。荷物に加えて、自転車の重みに女性は耐えかねたのだろうか。

ペルドン峠は巡礼を象ったオブジェと風力発電の



風車の他は何もない、見晴らしの良い峠である。麓のカフェで買ったボカディージョで昼食をとる。

峠からは高低差300mほどを一気に

下る急坂で、麓のウテルガ(Uterga)の集落に着く。ここから下りは緩やかになり、周りの風景を楽しむ余裕も出てきた。5kmほど行った集落にある巡礼宿の前庭では、先に着いた巡礼者たちが美味そうにビールを飲んでいる。思わずビールの誘惑にかられるが、これをじっと我慢。結果的にはこれが良かった。この辺りから脱水症状と疲れが出てきて、今日の目的地プエンテ・ラ・レイナにつく頃はフラフラになった。ビールなど飲んでいたら、ダウンは必至だっただろう。

プエンテ・ラ・レイナでは町の入り口にあったホテル・ハケ(Hotel Jakue)に飛び込む。運よく部屋が空いていた。午後4時だった。フロントでミネラル2本を買って、部屋に入って爆飲。風呂にゆっくり浸かり、漸く元気を取り戻す。夕食はホテルのレストランでビュッフェ定食とワインを頂く。おっとその前に、先ずはビールでのどを潤さなくては。

食事中に気が付くと向かいの席では、先ほど峠で一緒だった自転車カップルが夕食中だった。二人とも全くしゃべらない。疲労困憊のあまり舌が回らないのか、それとも「とんでもない旅に連れてこられた!」と彼女が減茶苦茶怒っているのか、他人事ながら心配した。



塔門先の「女王の橋」を渡り巡礼者はサンチャゴへ向かう。

プエンテ・ラ・レイナは11世紀半ば、町の西端を流れる川に難儀していた巡礼者のために、当地ナバーラの王妃が私財を投じて石造りの橋を架けた。「女王の橋」の由縁である。

＜「女王の橋」の前の塔門＞

旅路の難行話はまだまだ続くが、ここで閑話休題。「スペイン巡礼の道」についてご説明しましょう。



スペイン巡礼の道とは：スペイン北西端部にサンチャゴ・デ・コンポステラ (Santiago de Compostela) と言う都市がある。直訳すれば、「星の野原の聖ヤコブ」。聖ヤコブは、イエス・キリストの最初の弟子の一人で、イベリア半島の布教に努め、また最初に殉教した使徒と言われている。殉教後、彼の遺骸はサンチャゴの南にあるパドロン (Padron) の港に流れ着き、そこで埋葬された。8世紀に入りイスラム教国・ウマイヤ朝による支配など混乱が続く間に、何時しか聖ヤコブの墓は行方不明になった。813年の夏のある日、羊飼いが星に導かれて入った野原の洞で聖ヤコブの墓を発見した。それが「星の野原」と言われる由縁である。その墓の上に大聖堂が建てられ、ここを目指した巡礼の旅が10世紀半ばから始まった。エルサレム陥落によりこれまでの巡礼聖地を失った欧州の巡礼者には、仏・ルルドの泉とともに人気の聖地となったそうである。

ルートは、東欧その他のヨーロッパ中から無数にあるようだが、スペイン国内だけでも十数を数えると言われる。一番ポピュラーなのが「フランス人の道」で、ピレネーのフランス側の町から歩き始めて、スペインに入ってから東から西へと向かうルートである。1993年に世界遺産に登録されている。



＜巡礼ルート：濃いピンクの線がフランス人の道＞

「フランス人の道」の凡その行程はフランス側のピレネーの山麓の村から800kmとされている。今回はナポレオンが雪降る中の行軍で難儀したというピレネー越え(冬ではなかったけど)を回避し、スペイン側のパンプローナ (Pamplona、ナバーラ州都) から始めることにした。これで行程は700kmに短縮される。ナバーラ州、ラ・リオハ州、カスティージャ・イ・レオン州を抜け、サンチャゴのあるガリシア州まで続く道である。巡礼路の標高は200m～800m程度の起伏の多い平原・樹林・山間を抜けていく。今回の行程で8日目の1,150mのピークが一番高かった。

**巡礼者の三種の神器**：中世の頃は杖・瓢箪(水筒)・ホタテ貝だった。現在、杖はウォーキングポールに、瓢箪はペットボトルに変わったが、ホタテ貝はそのままである。

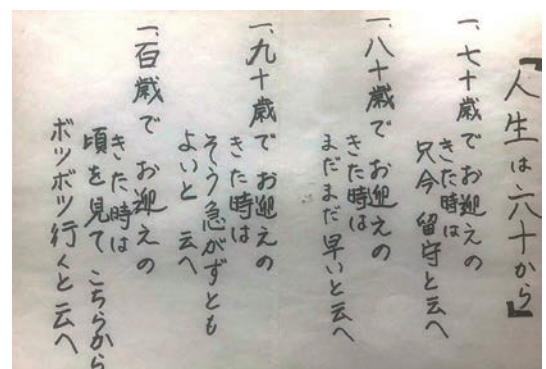
## 家族会員・石川純子に代わりご挨拶

石川智子 (平成7年 文)

家族会員としてお世話になった母・石川純子は、2020年5月5日に亡くなりました(享年72歳)。

50歳で乳がんの手術を受け、肺に転移、リンパ・骨・脳に転移してもなお最後まで希望を捨てず、元気にニコニコと前向きな毎日でした。昨年4月末から急速に体力が低下、ゆっくりと半昏睡状態に入ってから気持ちよさそうに眠っており、母の希望通り自宅で家族に囲まれ、穏やかな清々しい最期でした。

2020年2月、脳転移のため放射線治療で入院した際「退院したら目黒稲門会の方たちにお見せしたいわ。私よりずっと年配の方々が元気に頑張っておられるのだから。」と母から渡されたのがこの写真です。



母の言葉のいくつかを併せてお伝えします。

- ・「私だって早稲田の学生と同じように青春を生きるのよ。未来への弾む心があれば生涯青春。」
- ・主治医に対して(余命宣告の都度)「患者が諦めていないのだから、先生も諦めないで。ちゃんと長生きして私を治療してくださいな。」
- ・自分の癌細胞に呼び掛けて「あのね、私が死ぬとあなたも死んじゃうのよ。それじゃ困るだろうからあなたもほどほどにね。」
- ・「人間は二度死ぬ。一度目は肉体が死んだ時。二度目は人の記憶から忘れられた時。一時の見せかけでなく、人の心に何か良いものを残したい。」
- ・「長生きしたいわ。物理的に長生きでなくても、存分に生きて悔いなく人生を全うする意味で。」
- ・「人の不幸の上に、自分の幸福を作ろうとするな。」

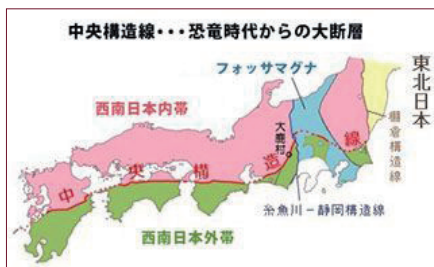
生涯を通じて友人に恵まれた母。そんな母に新しい刺激的な友好の場をくださったのが目黒稲門会です。昔からファンだった早稲田実業の甲子園出場祝いに家族として参加、当時の加藤会長、浅海幹事長、吉田事務局長、海口カラオケ部会長はじめ多くの方々とのご縁が始まり、皆さまとの温かい交流のご縁に、本人はいつも楽しげに感謝しておりました。

## 中央構造線—地学(長野県-大鹿村)の旅

山内 宏 (昭和56年 教育)

中央構造線—地学と聞いてピンとこられる人は、どれ位おられるでしょうか。実は、早稲田大学にも教育学部理学科に地学を専攻する教室があります。

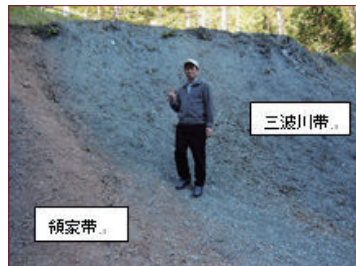
私は、そこの14期の卒業生でもあります。1学年40名弱でしょうから、全体の新生生の数(約9,000名程度と推定)で除すると非常に少なく、残念ながらメジャーではない、ややお宅っぽい分野でしょうか。対象とする相手が、マントルとかマグマとか、地質・岩石、鉱物、地球物理をメインに宇宙、天体及び気象迄も含む非常に広範で、基本物理・化学をベースに地球そのものを考察してゆく非常にスケールの大きな分野ともいえるかもしれません。教育学部の中では、かなり異質の理学部のカラーの強いところです。最近、NHKのプラタモリで地学関係の話題が取り上げられる機会が増えたことは、地学愛好家にとっては、うれしい限りです。さて本題の中央構造線とは、日本列島の大断層2つのうちの1つであります。1つ目は、東西日本を分断する糸魚川—静岡構造線(フォッサマグナ帯を形成)であり、もう1つが中央構造線で西は、熊本から東は、諏訪近傍からフォッサマグナ帯を經由して千葉方面迄、北日本にかけてどのように延びているのかは、現在まだ調査研究が進められているところです。中央構造線の説明の前段として、日本列島の誕生の由来について簡単に説明致します。日本は、今から約1500万年前にユーラシア大陸から日本海が誕生して島弧となりました。主に太平洋プレート、フィリピン海プレートの拡大で生じた日本海は大変深く、拡大の際には激しい海底火山活動が生じ日本の大部分は、断層によって切り離され列島化しました。その後、西南日本は時計周りに回転しながら移動し、両者が接合した部分が現在のフォッサマグナと呼ばれる糸魚川—静岡構造線の断層帯が出来ました。一方、中央構造線は、東西に約1,000kmにわたる大断層



であります。中央構造線の北側は、領家帯といって約1億8千万年前の変成岩からなり、高温低圧で主に泥岩(泥の堆積物)が変成されたもので茶褐色に見えます。南側は、秩父帯(三波川帯)で約1億年前の変成岩からなり、低温高圧で変成されています。三波川帯の変成岩は、やや緑色がかっており埼玉の長瀨地方でもよく観察さ

れます。

今回ご紹介する長野県大鹿村は、まさに中央構造線の大断層のある村であり、日本一美しい村としても有名です。地理的には、南アルプスと伊那山地に挟まれた山間の土地。中央構造線が村内南北に通っており、天竜川の支流・小渋川が南アルプスから西流しています。村の北部の分杭峠という難所から鹿塩川が流れていて、村の役場の中心部で合流しこの辺りは、鹿塩地区と呼ばれ塩泉が噴出しています。海から遠く離れた山奥にありながら古くから製塩が行われていた場所です。中央構造線を挟み前出で述べた



通り、両側の地質・地形が異なります。地形的には、東側(三波川帯)に地滑り地形が多数分布して平坦地上に集落が分布しています。西側(領家帯)には、崩落地が多く平坦な地形がほとんどなく集落も発展していません。

上図は、中央構造線の露頭(断層露出部)で、向かって右側が三波川帯(長瀨と同じ地質構造)、左側が領家帯です。



紅葉の時期にはこのような素晴らしい景色も観察されます。さて、何故大鹿村で、塩が採れるのか、この塩が遙か彼方の太平洋由来であるとの、塩湯の温泉につかりながら、何故なんだろうと思いを巡らせるのも楽しい旅の醍醐味です。文化的には、300年以上も続く大鹿歌舞伎文化もが脈々と継承されており、毎年秋には地元の大鹿中学でも演芸されるほど根付いています。中学生ながら素晴らしい演技に大変驚いた次第でもあります。さらには、故原田芳雄氏主演の歌舞伎をテーマにした笑いあり涙ありの「大鹿村騒動記」でも有名です。

この日本一美しい村には、昨今リニア新幹線鉄道が走るという計画があり、大規模な工事は村人の皆様のご心痛の種でもあるようです。私個人の意見としましては、地質構造的にも活断層もある難所や領家帯に崩落箇所も多く確認されるこの場所に、トンネルを掘削する工事というのは、多くの労力とお金を投じるのではと危惧しております。

大鹿村は、地学的なスケールの大きさ、文化的には伝統歌舞伎等とても魅力ある場所です。是非、一度訪れられてはと思います。最後に、本投稿を機に地学の愛好家が一人でも増えていただければ幸甚です。



## 目黒の庚申塔巡り

吉田博行（昭和42 政経）

体力維持のため、散歩を始めた。無目的に歩いても長続きしない。何か目標をと、前から関心を持っていた区内に数ある庚申塔に着目した。

目黒区の資料によると、実際に現存し拝観の出来る庚申塔は21基ほどあるとのこと、我が家からすべて歩いて探すことを目標に掲げた。

庚申とは、道教の教えにあり10世紀頃に盛んだったようだ。庚申(かのえさる)の夜眠ってしまうと人の体内に住んでいる虫が天帝にその人の日頃の行いを報告し、罪状によっては寿命が縮まる。この日は身を慎み虫が身体から抜け出さないように徹夜で過ごしたとそうだ。この教えに、仏教や庶民の信仰が交わり江戸時代には全国の農村で大流行した。身を慎むことから始まったといわれているが、徐々に皆で飲食歓談して過ごす楽しい集まりになって、農作業の知識やさざまな情報を交換する場でもあった。この集会を3年18回続いた記念に建立したのが庚申塔との事。長寿や健康のみならず、家内安全や五穀豊穰、現世や来世の事などを祈り、それを碑面に刻んだ。(参考：目黒区広報資料、中目黒5丁目町会小冊子(日野氏より))

21カ所のうち20カ所を参拝した。江戸時代は急な坂の上や、旧幹道の分かれ道等に設置されたものと思われるが、大きな寺や神社の片隅に安置されていたり、時代の変化や道路事情で移動されたものも多いようだ。今でも、地元の住民により清掃されていたり、手厚い保護を受けていたりされている祠や、朽ち果てそうな石塔のみの庚申塔もあり、それぞれ語らずして世の流れを見ているように思えた。

区内で一番古い庚申塔は、十七ヶ坂の途中にある石塔で寛永3年の銘がある。

目黒川の南側の丘陵地帯に添って幾つかの庚申塔を見受ける。このあたりは農家が多く散在して村の中心だったのかも知れない。

ひいらぎ庚申、田道庚申、十七ヶ坂庚申、ばくろ坂上庚申、藤の庚申は麻布方面から目黒不動、多摩川方面への道しるべとなっていたのであろうか。



ひいらぎ庚申

寿福寺庚申、宿山庚申、けこぼさか庚申も藤の庚申から目黒不動につながる道筋と思われる。

大鳥神社、清水庚申、大辻庚申も玉川方面

につながる街道でもあり、鷹狩り場の農民が、信仰を守り続けてきたものではないか。

この探索は、かなりの急な坂を上り降りする行程ではあったが、江戸時代の庶民の生活を想像しなら令和の時代は、どんなことが天帝に報告されるのか、報告されないように呑んで騒いでいるのは我々ではないかと想像しながらブラブラと歩く、ほどよい散歩であった。

## 相続よもやま話 その1

尾崎 充（昭和63年 政経 公認会計士・税理士）

相続の仕事に関わっていると本当に沢山のトラブル、間違い、勘違い、あるいは「こうしておけば良かったのに～」と言う様なケースに遭遇します。

相続にまつわるこの様なあるある事例を紹介してゆきたいと思います。

ところで皆さんは、暦年贈与はご存知でしょうか？簡単に言うと毎年1月1日～12月31日の間の贈与について基礎控除110万円以内であれば贈与税がかからないという制度です。

例えば良くあるのが祖父や祖母が子供とか孫とかの預金通帳を自分で管理して毎年その通帳にお金を預け入れている様なケース、あるいは毎年111万円を預け入れて贈与税の申告をして贈与税を1千円(計算式(贈与金額111万円-基礎控除110万円)×税率10%)支払っているようなケースがあります。

この様なケースで良く問題になるのが、祖父母が亡くなって税務調査の時に名義預金として相続税を課せられてしまうという事例です。

コツコツと贈与していたつもりが何の意味もなかったとなってしまうので暦年贈与を行うときには下記の留意事項に注意して行う事が肝要です。(亡くなった祖父母はあの世なのでそんな事はつゆ知らずですが・・・)

- ・贈与契約書を作成して贈与者、受贈者の双方が署名
- ・贈与契約書に確定日付けを付与
- ・贈与を受けた預貯金の管理は受贈者が行う(管理支配基準)
- ・贈与を受けた預貯金のハンコは受贈者のハンコを使う
- ・贈与税の申告を行う(この事は贈与が成立するかどうかの判断とは無関係なので注意)
- ・今までに名義預金で積み立てていた預金がある場合には、住宅取得資金の贈与も活用
- ・法定相続人以外(お孫さん、息子の嫁等)への贈与は3年内贈与財産の適用なし
- ・受贈者が未成年者の場合には親権者が署名、押印すること

(教訓)あげたのに あげてなかった もう遅い

## 会員ギャラリー

『雪の磐梯山』 水墨画 F6号  
牧野武夫（昭和40年 理工）

2020年3月、猪苗代湖畔の有栖川宮別邸に寄った後、湖越しに見た雪の磐梯山です。

水墨画もそうですが絵画は写真と異なり、印象で描くことが多く、多少実物と異なります。

皆様も気楽に初めてみませんか。



『目黒川の桜花』水彩 F4号  
大杉邦雄（昭和40年 法）

昨年は桜を愛でる人も少なく、静かでしたが、花は見事に咲き誇っていました。

昨今はコロナでスケッチに出かけることも少なくなり、創作意欲も減退気味です。



『五百羅漢さん!!』 油彩 F50号  
佐伯文子（昭和51年 文）

狩野一信の五百羅漢の100幅の絵、目黒不動尊の五百羅漢、川越喜多院の五百羅漢を参考にしました。

神通力、豪快な笑顔、奇想天外な不思議でユニークな世界を、とても楽しく色鮮やかに表現しました。動物の中に飼っていた9匹の猫と9つの目がある白いバグも描きました。太陽や富士山も入れました。



## 新入会員



木村久生（平成27年 商学研究科）  
（江東区富岡在住）

2015年にビジネススクールを修了しました木村久生です。

後藤会長にお誘い頂き、この度、目黒稲門会に入会させて頂く事になりました。国学院大学出身でして、稲門会初心者ではございますが、何卒よろしくお願ひ致します。



正木英恵（平成21年 社会科学部）  
（品川区西五反田在住）

会員の皆様と交流を深めることで、自らの知見を広げていきたいと思い、入会致しました。現在、品川区内の総合病院に勤めております。コロナ禍の中、限られた形ではありますが、皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

## 事務局便り

昨年4月より始めたメール茶話会は、本年1月末現在で、参加者30名、801件の投稿があり、オンライン茶話会は、計42回開催、延べ330名の参加がありました。積極的なご参加をお願いします。

## 編集後記

コロナ禍も1年を超えてしまいました。これだけ長期になると、医療従事者の方々の疲弊が本当に心配です。私たちは「うつらない、うつさない」を心がけ、自分でできることを続けるしかありませんが。

東京オリンピック・パラリンピックも悲観的な気持ちになっていましたが、無観客という可能性も出てきたようで、それならば開催できるかもしれません。カギを握るのはやはりワクチンでしょうね。

（猪名川 記）